

設立アピール（案）

政権交代から3年が過ぎました。

しかし、新しい社会への転換への道のりは本当に厳しくて、現状の政治を前に、新しい何かが始まる、日本が変わる、という期待の多くが幻滅に代わってしまっています。

そして政治の閉塞感の中で、何かをやってくれそうな「リーダー」を求め、世論が一気にそこに靡いていく極めて危険な流れも強まっています。

私たちは、ふり返り、考えます。

政権交代にこめられた期待とは何だったのか。それを実現しようとしてきた民主党政権のこの現状はなぜなのか。また他方で、エネルギー政策の転換に対して見られるような、財界やアメリカなどの反撃のすさまじさ。政治の転換、社会の改革は、実に壮大で困難なたたかいなのだということ。——そしてその中で、どうすべきか。

私たちは、あらためて原点に立ち返ろうと思います。

政権交代を作り出したのは私たち市民の意志だったこと。政治に頼ったのではなくそれを可能にした基盤は粘り強い様々な社会運動だったこと。それと結びつき政治の場で闘う政治家の努力だったこと——つまり、社会を変えるのは、自分たち自身の活動なのだということ。

私たちは、もう一度、宣言します。

フクシマの事態を前になお、自らの権益のために原発を維持しようとする人々。

自分たちの資産や所得への課税強化は拒否して、消費増税だけを進めようとする人々。

貧困と格差の拡大を“自己責任”と切り捨て、雇用や社会保障を削ろうとする人々。

地域や食・環境・一次産業を軽視して、何でも市場競争で調達すればいいと考える人々。

集団的自衛権の行使を公言し、憲法9条の改正をもくろむ人々。

——こうした人々による、こうした人々のための政治の復活を、私たちは断じて拒否します。私たちがめざすこれからの日本と北海道は、「命を最優先し互いに支え合う社会」「雇用と生活を保障しあう社会」「環境に配慮した持続可能な安心社会」です。

そして、民主党も、こうした立場でしっかり闘うべきと考えます。

こうした思いを結集して、私たちは今日『市民が主役』の政治をつくろう！北海道フォーラム」を設立しました。ここは、様々な現場の社会運動の現実と、政策の研究・討論をつなげる、広範な市民の“広場（フォーラム）”です。そしてその交流と討論の中から、具体的な政治の場に反映するための政策提言を進めていきます。

政治家だけにまかせるのではなく、一人ひとりが『市民が主役』となって政策を語り、運動を交流し、発信していくことで政治は変わり得ます。

今日をその再スタートの日として、みんなで歩き始めましょう。

希望ある未来は、私たちの意志と行動のその先にあります。

2012年10月20日

『市民が主役』の政治をつくろう！北海道フォーラム」設立総会